

令和2年9月16日  
四国電力株式会社

## 伊方発電所における使用済燃料乾式貯蔵施設の設置に係る 原子炉設置変更許可について

当社は、平成30年5月25日、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づき、伊方発電所における使用済燃料乾式貯蔵施設（以下、乾式貯蔵施設という。）の設置に係る原子炉設置変更許可申請書を原子力規制委員会へ提出するとともに、愛媛県・伊方町に対し、安全協定に基づく事前協議の申し入れを行いました。

また、本年5月18日には、審査内容を踏まえた原子炉設置変更許可申請の補正書を同委員会へ提出するとともに、愛媛県・伊方町に対し、安全協定に基づく事前協議内容の補正の申し入れを行いました。（令和2年5月18日 お知らせ済み）

本日、同委員会より、乾式貯蔵施設の設置に係る原子炉設置変更許可をいただきましたので、お知らせいたします。

当社は、令和6年度の運用開始を目指して、地域の皆様のご理解をいただきながら、乾式貯蔵施設の設置に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

（参考）乾式貯蔵施設の概要について

以 上

## 乾式貯蔵施設の概要について

### 1. 設置目的

伊方発電所で発生した使用済燃料を再処理工場へ搬出するまでの間、一時的に貯蔵する施設として、伊方発電所の敷地内に乾式貯蔵施設を設置いたします。

### 2. 運用開始時期

令和6年度（2024年度）からの運用開始を予定しています。

### 3. 施設内容

乾式貯蔵施設は、乾式貯蔵建屋と乾式キャスクから構成しており、使用済燃料の冷却に水や電源を使用しない、安全性に優れた貯蔵方式です。

#### (1) 乾式貯蔵建屋（図－1 参照）

項目	計画
規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 棟（鉄筋コンクリート造り）</li> <li>・ 東西：約40m、南北：約60m、高さ：約20m</li> </ul>
貯蔵容量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 燃料集合体で約1,200体規模※ （乾式キャスクで45基分）</li> </ul>

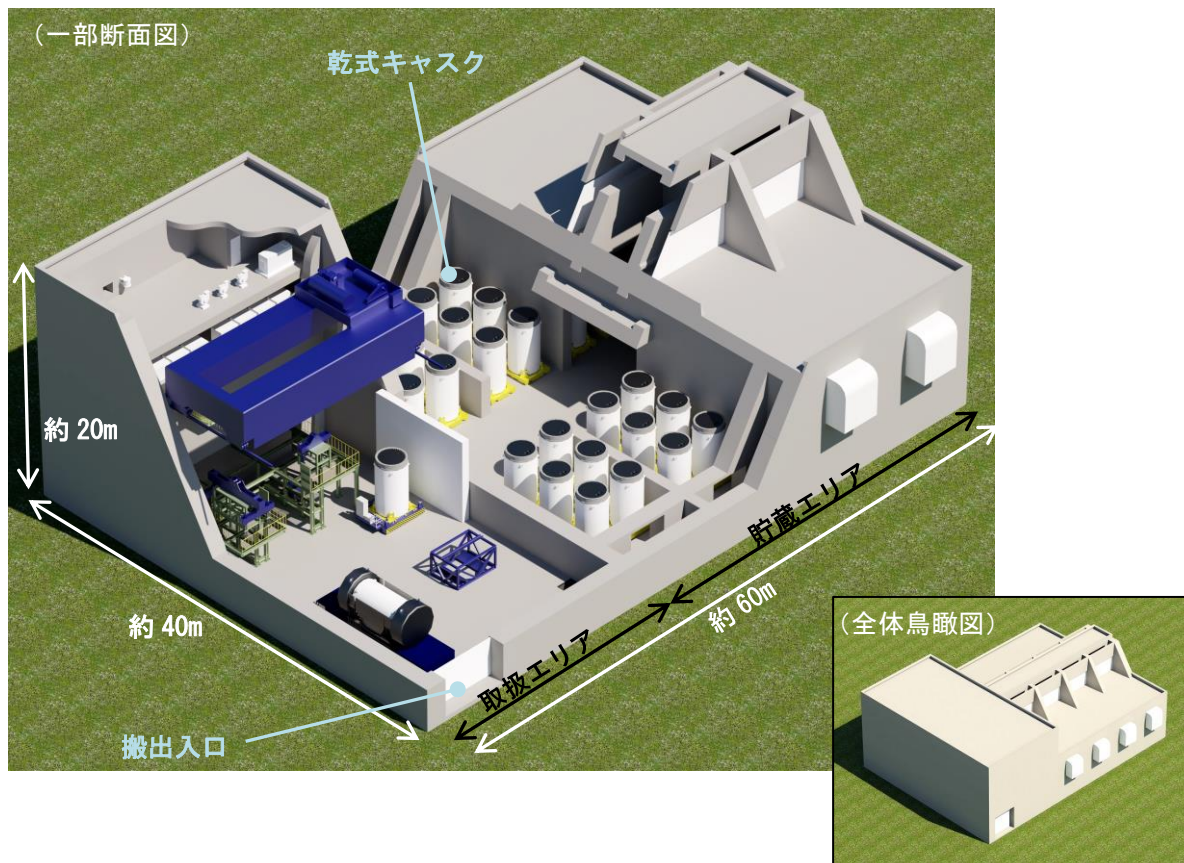
※使用済燃料に含まれる金属ウラン量としては、500トン・ウラン規模

#### (2) 乾式キャスク（図－2 参照）

乾式キャスクは、4つの安全機能（閉じ込め機能、臨界防止機能、遮へい機能、除熱機能）を有し、使用済燃料を輸送容器に詰め替えることなく発電所外へ搬出することができます。（輸送・貯蔵兼用）

項目	計画
寸法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高さ：5.2m、直径：2.6m</li> </ul>
重さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 約120トン（使用済燃料を収納した状態）</li> </ul>
収納体数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用済燃料32体/基（1,2号機燃料）</li> <li>・ 使用済燃料24体/基（3号機燃料）</li> </ul>

<図-1> 乾式貯蔵施設のイメージ



<図-2> 乾式キャスクの構造

